

第2学年 道徳科指導案

場 所 : 2年2組教室

授業者

Ⅰ 主題構成表

主題名 「おもいやりのこころ」 教材名「ぐみの木と 小鳥」

| | | |
|---|---|---|
| <p>■内容項目 B—(6)親切・思いやり 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。</p> | <p>■内容項目から見た児童の実態 泣いている仲間や、困っている仲間に、「大丈夫?」「手伝うよ。」と自分から声をかけ、思いやりのある行動をすることができる児童が多い。しかし、身近にいる子でも仲の良い子には親切にできるが、そうでない子に対しては進んで親切な行動ができない児童もいる。そこで本時は、相手の立場に立ってその人の気持ちを考え、親切な行為が相手の喜びとなり、結果として自分の喜びや充足感につながることに気付かせたい。</p> <p>■要因 相手に親切にすることが自分の喜びにもなることになかなか気付くことができない。</p> | <p>■教材の分析 小鳥は、ぐみの木が友達のりすを心配する様子を見て、代わりに様子を見に行く。動けないぐみの木のために、自ら進んでりすの様子を見に行く、りすは病気で寝ていた。そして、嵐の日、小鳥は葛藤の末、りすにぐみの実を届けに行くという教材である。</p> <p>自分が危ない目に合うかもしれないにもかかわらず、りすの立場や気持ちを考えて届けに行った小鳥の優しい気持ちに気付かせたい。</p> <p>嵐の中、ぐみの実を届けてくれことを、りすとぐみの木から感謝された小鳥の心情から、親切にすることが自分の喜びにもなることにも気付かせたい。</p> |
| <p>■ねらい 嵐の中、りすにぐみの実を届けに行くか迷い、葛藤する小鳥の心情について話し合うことを通して、相手の立場や気持ちを考えて行動しようとする心が思いやりの心であり、思いやりの心をもって接すると、相手も自分も温かい気持ちになることに気付く、身近な人に親切にしようとする心情を育てる。</p> | | |
| <p>■研究内容との関わり 研究内容1—(1)課題意識をもった、主体的な学びを生み出すための導入の工夫 ・魅力ある教材の提示 研究内容1—(2)自己を見つめ、多面的・多角的に考えるための展開の工夫 ・価値理解を促す主発問の位置づけ 研究内容1—(3)自己を見つめ、考えを深める終末の工夫 ・本時学んだ価値について振り返り、よりよい生き方について考える場の位置付け</p> | <p>■基本発問(◎中心発問) ○ぐみの木さんからりすさんの話を聞いたとき、小鳥さんはどんなことを考えていたかな。 ◎「じっと考えた」とき、小鳥さんはどんな気持ちだったのかな。 ○小鳥さんは迷っていたけど、どうしてりすさんのところへ行ったのかな。 ○りすさんに「ありがとう。」と言われた時、小鳥さんはどんな気持ちだったのかな。</p> | |

本時の展開

| | 主な発問と予想される児童の反応 | 指導上の留意点 |
|------|--|--|
| 導入 | <p>1. 教材に対する興味をもつ。</p> <p>○ペープサートを見せながら、登場人物などについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぐみの実食べたことあるよ。 ・りすさんなぜ大丈夫かな？ ・ひどい嵐だな。小鳥さん大丈夫かな。 | <p>研究内容1-(1) 課題意識をもった、主体的な学びを生み出すための導入の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りすとぐみの木は友達で、りすと小鳥は友達ではない関係を整理する。 ・ぐみの木の話聞いて、小鳥はりすにぐみの実を届けるようになったことをおさえる。 |
| 展開前段 | <p>2. 教材「ぐみの木と小鳥」の範読を聞いて話し合う。</p> <p>○ぐみの木さんからりすさんの話を聞いたとき、小鳥さんはどんなことを考えていたかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りすさん大丈夫かな。 ・ぐみの木さんが心配しているから、ぼくが見に行こう。 <p>◎「じっと考えた」とき、小鳥さんはどんな気持ちだったのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嵐はこわいけど、りすさんのことがまだ心配だな。 ・自分が怪我をするかもしれないけど、りすさんに早く元気になってほしい。 ・ぐみの木さんも心配しているから、ぼくが見に行かなきゃ。 <p>○小鳥さんは迷っていたけど、どうしてりすさんのところへ行ったのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りすさんがこまっているから、ほっとけない。 ・りすさんやぐみの木さんのためだから、あぶなくても行ったんだと思う。 <p>○りすさんに「ありがとう。」と言われた時、小鳥さんはどんな気持ちだったのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行くか迷ったけれど、届けてよかったな。 ・りすさんが元気になってよかったな。 ・ぐみの木さんにりすさんが元気になったことを伝えなきゃ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・範読の際、嵐のBGMを流し、教材に引き込む。 ・りすを心配するぐみの木の気持ちを知り、何かをせずにはいられなくなった小鳥の気持ちをおさえる。 <p>研究内容1-(2) 自己を見つめ、多面的・多角的に考えるための展開の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小鳥とぐみの木になって役割演技をする。(教師対児童→ペア) ・役になりきるためにお面を用意する。 ・全体交流の際は、「あぶないよ。」「ひどい嵐だよ。」「小鳥さんとりすさんは友達じゃないのに、行くの。」などと問い、葛藤の末、小鳥が行ったことを確かめる。りすやぐみの木の気持ちを考えて行動した小鳥の思いやりの心に気付かせる。 ・最後にぐみの木の気持ちをおさえ、親切にしたことで三者とも温かい気持ちになったことに気付かせる。 ・相手の立場や気持ちを考えて自分にできることをすることが親切であることに気付かせる。 |
| 展開後段 | <p>3. 価値を共有する。</p> <p>親切にすると、自分も相手もうれしい。</p> | |
| 終末 | <p>4. 振り返りを記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小鳥さんみたいに友達のことを考えて行動することが大切だと分かりました。 ・私も友達が忘れていた水筒を届けたことがあるよ。これからも相手の気持ちを考えて行動したいな。 ・今度のおもちゃランドでたくさん1年生が来るから、優しく教えたり、たくさん遊んであげたりしたいな。 <p>5. 児童の振り返りの紹介や教師の説話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段の生活の中で、思いやりの心で接している児童や振り返りを紹介する。 | <p>研究内容1-(3) 自己を見つめ、考えを深める終末の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの自分の生活の中で「思いやりのある行動をしたこと」を思い出し、これからも相手の気持ちを考えて行動したいという意欲をもたせる。 ・思いやりの心をもって生活している仲間の姿について知り、自分も思いやりの心をもって生活しようとする意欲を持たせる。 |